

慢性疼痛性疾患に対するトラムセット®配合錠 の治療効果および副作用に関する研究

なが み はる ひこ
長 見 晴 彦

キーワード：慢性疼痛，トラムセット®配合錠，漸増法，嘔吐予防

要 旨

慢性疼痛は治療に難渋することが多く心理的要因，社会的要因などが複雑に病態形成に関与している。今回，2016年6月から2017年7月までに初診来院した腰椎，膝痛，肩痛疾患患者312例中既存のNSAIDsなどの治療にて軽快しない難治性慢性疼痛患者53例に対しトラムセット®配合錠を投与しその有効性，副作用について検討した。投与法はトラムセットを眠前1/2錠から開始し以後漸次増加させ最大1日6錠まで投与する漸増法を採用し16週間観察し，観察期間中にVisual Analogue Scale (VAS)にて疼痛評価し副作用発現率も検討した。結果は対象患者はすべて治療開始後16週間まで継続治療可能であった。疼痛について腰痛VASは89.7mmから51.1mmと有意に改善し，下肢痛VASは60.3mmから53.4mm，膝関節痛は78.7mmから61.1mm，肩関節痛は69.3mmから57.4mmへと有意に改善した。また罹病期間，年齢に関係なく本剤は有効であり，約90%の症例において除痛効果が有効であった。副作用の発現は53例のうち12例(22.6%)に認めたがいずれも軽度であった。

はじめに

慢性疼痛は治療に難渋することが多く，その理由として慢性疼痛は中枢神経系や末梢神経系における疼痛抑制の可塑的变化や心理的要因，社会的要因などが病態形成に関与し病態が複雑である点が挙げられる¹⁾。慢性疼痛の治療方針は鎮痛剤投薬，リハビリテーション，ブロック注射などの併

用療法が一般的であるが，効果不十分な症例も多い。本邦においては慢性疼痛治療薬としてトラムセット®配合錠 (TRAMCET® Combination Tablets) が2011年7月から使用可能となり変形性膝関節症や腰痛症に対する本剤の有効性が報告されているが²⁾，実際の有効性は報告によって異なる。そこで今回，難治性慢性疼痛性疾患の有症例に本剤を投与し，その有効性，副作用について検討したので文献的考察を加えて報告する。

Haruhiko NAGAMI

長見クリニック

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1

長見クリニック